

## 令和5年度 千葉市総合教育会議 議事概要

1 日 時 令和5年11月 9日(木) 10:30 ~ 12:00

2 場 所 幹部会議室

### 3 出席者 (構成員)

神谷市長、鶴岡教育長、小西委員、藤川委員、竹田委員、高津委員、大山委員  
(出席者)

大木副市長、青柳副市長

### (事務局)

市長部局：総合政策局長、総合政策部長、政策企画課長、

こども未来部長、こども家庭支援課長、雇用推進課長

教育委員会：教育次長、教育総務部長、学校教育部長、生涯学習部長

学校教育部参事、企画課長、教育支援課長、教育改革推進課長

### 4 議題

(1) 教育大綱における重点項目関連事業等の進捗状況について

(2) ヤングケアラー支援について

(3) 千葉市キャリア教育の新基本方針の策定について

### 5 議事概要

#### <挨拶>

市長

総合教育会議は約1年半ぶりの開催となります。

その間、様々な事業において、市長部局と教育委員会とで連携しながら進めていただいていること、感謝申し上げます。

今年は、様々な事情により十分な教育を受けられなかった方への学び直しの支援である公立夜間中学「市立真砂中学校かがやき分校」を開校し、30数名に入学していただいております。また、「不登校対策パッケージ事業」についても、多くの事業を企画してもらいました。

本日は、大綱でも重点項目としている「ヤングケアラー支援のあり方」や「キャリア教育の方針」について議論したいと思います。

教育委員会と市長部局が課題を共有しながら、ともに取り組んでいくということが重要ですので、現在の取り組み状況を踏まえ、課題や今後の方針などについて、皆様と意見交換していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

教育長

これまで総合教育会議では、学校教育推進計画や生涯学習推進計画といった重要な計画の策定を初め、教育に関する様々な施策について、市長、両副市長と教育委員会で意見交換し、議論を深め、よりよい教育行政の運営に取り組んで参りました。今回の議題は、いずれも本市の教育行政において大変重要なものであると認識しておりますので、率直な意見交換ができればと思っております。

どうぞよろしくお願いたします。

## (1) 教育大綱における重点項目関連事業等の進捗状況について

### (説明要旨)

総合政策部長 教育に関する大綱において、取り組むべき重要な項目として、10項目を設けており、それらの項目に関連する取組みについて説明いたします。

- 項目1 「新しい時代を生きる子どもたちのための学校教育の充実」
  - ・ICTの活用、優良な活用事例を共有し、学校現場に反映する取組み
- 項目2 「キャリア教育の充実」
  - ・議題となるため割愛
- 項目3 「環境教育の推進」
  - ・環境学習モデル校事業を重点実施校とし、本格的に取り組んでいる
  - ・児童生徒、教職員向けや幼児や保護者向けの研修やイベントも実施
- 項目4 「全ての子どもたちを取り残さないための対応」
  - ・不登校対策として様々な取組み
  - ・発達障害児の相談窓口の強化
- 項目5 「公立夜間中学による学び直しの支援」
  - ・入学を希望する方を対象に個別相談等
- 項目6 「オリンピック・パラリンピックのレガシー継承」
  - ・アスリートの学校訪問やトップスポーツチームとの交流を図る活動
- 項目7 「学校教育を支える人材の育成・確保」
  - ・教職員、専門スタッフ、ボランティアなど、多種多様な人材の育成 等
- 項目8 「放課後における居場所と多様な体験・活動の充実」
  - ・アフタースクールや子どもルームの充実
- 項目9 「安全で快適な教育環境の整備」
  - ・設備やトイレなどのハードの改修による環境改善
  - ・交通安全教室などソフト面での取組み
- 項目10 「千葉県への愛着と誇りの醸成」
  - ・教材の作成やマンガによる郷土教育の実施
  - ・加曽利貝塚の新たな発掘調査
  - ・開府900年に向けた取組みの検討

以上、概要の説明となります。

### (質疑応答)

藤川委員

ICTの活用について、全国学力学習状況調査の結果、千葉市はICTを活用している子どもの割合が、全国平均と比べると低いことがわかりました。

原因の1つに、千葉市のネットワークのセキュリティが非常に厳しいことがあると思っています。例えば外部の方とのコミュニケーションが図れない、そういったページを見ることが出来ないといった状況があります。

もう少し使いやすい環境にしないとICTの活用は進まないと思います。

次に、先生方が足りない状況が続いています。採用人数は、定員を確保しているのですが、年度途中で休職する等、本当に人が足りない状況となっています。これは千葉市だけの問題ではないとは思いますが、もっと採用人数に余裕を持たせる等、ある程度、人が抜けてもカバーできるようにしていただきたいと思っています。

- 学校教育部長 ICTに関しまして、セキュリティ面の問題は認識しております。  
教育委員会としても、そのあり方について検討し、使い勝手と必要なセキュリティとのバランスが取れる状況に改善していきたいと考えています。
- 教育総務部長 職員の採用に関し、近年では、男性も育児休業を取得するようになり、これまで以上に、人手不足になりやすい状況ですので、柔軟な対応が出来るように採用方法も工夫しつつ、関係部局と協議し、改善を図ってまいりたいと思います。
- 市長 ICTに関し、行政のネットワークのセキュリティは厳しくなりがちです。  
スピーディな利用や使い勝手の良さを考えなくてはならないですが、一方で、データ流出やウイルス感染などの問題が簡単に発生してはいけませんので、必要なセキュリティレベルを見極めないといけないと思います。  
ネットワークの更新をする時期が来ると思いますので、このことについて、情報経営部でもしっかり検討したいと思いますが、一般家庭と同じような使い方にはならないことはご理解いただきたいと思います。  
また、教職員の採用に関しては、千葉市が必要とする教職員の数を確保することが出来るよう採用のあり方を考えていかなければならないと思います。  
市として主体的に採用できるようにしていかなければならないと思いました。
- 大山委員 環境教育について、多くの学校でバザーを行っています、持ち帰るときにパックを使用しています。それをリユースのお皿に出来ないのかと思いました。  
以前、試しましたが、当時はリユースのお皿がかなり高額であり、費用がかかってしまいました。今はより安価なものもあろうかと思っています。  
市長部局と協力して、子どもたちがこうした環境活動に関わるによりよい形で行っていくことが出来たらいいと感じました。
- 総合政策部長 現在、市が主催するイベント等で、リユース製品を使用するといった対応については、少しずつですが、取り組んでいるところです。  
今後、こうした対応を広げていきたいと考えていますので、どのような形で進めていくことが出来るか、教育委員会事務局とも連携しながら考えたいと思います。
- 学校教育部長 学校現場において、環境教育やキャリア教育といった、〇〇教育を取り上げてほしいという話が多数来ており、それぞれに教材やパンフレットを配布してほしい、授業をしてほしいという要望がありますが、その対応には限界がございます。  
そういった要望をする際には、配るだけでいいのか、ホームルームの時間でいいのか、しっかりと授業で行う必要があるのかというように、学校現場には具体的にどうしてほしいのかを伝えていただきたいと思います。  
そうした上で各学校の状況に応じて、出来ることを対応することになります。
- 竹田委員 発達障害児の相談の待ち日数が35日程度と聞いていますが、現在、どの程度、改善されているのか教えてください。  
また、学習・生活支援事業も今年度会場を増やしたことで、希望者は全て受けることが出来たのか、教えてください。
- 学校教育部長 相談の待ち日数につきまして、昨年度、療育センターにおける特別支援の待ち日数が平均35.7日となっております。  
これは、今、相談が必要なのに、相談を受けることが出来るのが、約1か月後という、当事者にとっては非常に苦しい状況であることは理解しており、その状況を改

善するべく、本格的な相談の一手手前の学校訪問事業を強化しました。  
ですが、結果として、平均31日程度の待ち時間となりまして、若干、短くなりま  
したが、根本的な解決には至っていない状況となっております。

総合政策部長

今後は、様々な場面で、相談に対応できる人材を増やしていくことで、療育センタ  
ーでなくとも済む相談については対応できるようにしたいと考えております。

学習・生活支援事業について、継続的にやってきた事業でございますが、徐々に需  
要が増えてきております。

令和5年度に会場を増やしましたが、需要を全ては満たすことは出来ておりませ  
んので、今後も状況を見ながら対応していきたいと考えています。

市長

保護者の話として、ICTを活用した教育について、コロナ禍で対応が進んだとい  
う声がある一方で、内容がクラスや学校で異なるといった声も聞こえます。

これから本格的に取り組んでいくものですが、市全体でICT活用については底上  
げをしていただきたいと思います。

また、自宅で学校の授業を見ることが出来るように配信していると思いますが、小  
学校5年生だけでも、3年生の授業を聞きたいという話がありました。

これは不登校児童の支援という側面もありますので、何かルールがあるかもしれま  
せんが、物理的・技術的には対応可能ですので、柔軟な対応をしていただきたいと  
思います。

その他、フリースクールへの補助を進めているところですが、リモートで体験や学  
習することに関しては対象外となっていると聞いています。

こちらも何かの制約があるのかもしれませんが、教育機会の確保には様々な手法が  
ありますので柔軟な対応をしてほしいと思います。

また、先日、スポーツ体験のイベントに参加しましたが、ボールを投げるのが上  
手に出来なくなっているのではないかと感じました。小中学校の体力テストの結果  
などを分析し、体力面においても適切な取組みを行っていただきたいと思います。  
その他、今後、中学や高校では情報分野の科目ができ、本格的にプログラミングな  
どを学習することになっていくと思いますが、その時に格差が生まれないようにし  
ていただきたいと思います。

先日、教育委員会事務局からプログラミング学習の取組み方針について、話を聞き  
ましたが、とても重要な分野になっていくと思いますので、千葉市独自の取組みも  
含めて、検討を進めていただきたいと思います。

教育長

ICTの活用について、誰一人取り残さないための対応としても、柔軟な対応をし  
ていくように、前向きに考えたいと思います。

もう1点。体力については、やはり落ちているというのが現状となります。

コロナ禍の影響と思われ、体力の低下は全国的に見られますが、その中でも千葉市  
は体力の低下が大きくなっておりました。特にボールを投げる能力の低下が大き  
く見られました。

現状では、遊びの延長で体力をつけるという視点がありません。

市長もご参加されたスポーツイベントでも感じましたが、遊びの延長からの体力の  
強化という視点も重要だと思いましたので、今後、どのような取組みをしていく  
いいのか検討を進めていきたいと思っています。

## (2) ヤングケアラー支援について

### (説明要旨)

- こども未来部長 ヤングケアラー支援について説明します。
- ヤングケアラーとは
    - ・こども家庭庁による定義、ヤングケアラーの特徴
    - ・事例の紹介国の動向、千葉県の取組み
  - 千葉市のヤングケアラーに関する実態調査の結果
    - ・ヤングケアラーの認知度は低い。約半数は聞いたことが無い。
    - ・ヤングケアラー自身も、その認識をしていない場合がある。
  - ヤングケアラー支援に関する課題と対策
    - ・「正しい認識」、「安心して相談できる環境」、「必要とされる支援に繋げる体制」が重要。
  - 現在の取組みと今後、取り組んでいく施策
    - ・研修等による人材育成、パンフレット等による周知
    - ・支援に繋ぐ相談体制（コーディネート機関等）の強化

### (質疑応答)

- 藤川委員 ヤングケアラーの児童生徒を最も見つけることが出来るのは、学校現場だと思っていますし、先生方もよく子どもたちを見てくれています。問題は、見つけた後の対応が不明瞭であることだと考えています。
- 主にスクールソーシャルワーカーに入ってもらい、相談を受けているわけですが、先生やソーシャルワーカーが、行政のどこに連絡をしたらいいのかということが、よくわかっていない現状となっています。
- 例えば、虐待であれば、児童相談所に相談することが明確であり、連絡後は、児童相談所がリーダーシップを持って、対応をするようになっています。
- ぜひ、ヤングケアラー本人もそうですが、先生方が連絡できるワンストップ窓口を設け、行政がその家庭を支援していく体制をとってもらいたいと思います。
- こども家庭支援課長 ワンストップ窓口について、現在、どのような形がいいか検討をしています。
- また、他の相談窓口に来たヤングケアラーをすくい上げる体制をどうにかして構築できるように考えているところです。
- さらには、適切な支援に繋げるため、関係機関と連携するような、いわゆるコーディネート機能を有する体制を作り上げていきたいと考えているところです。
- 大山委員 千葉市には、各区にあんしんケアセンターがあり、民生委員も活動しております。
- あんしんケアセンターにも協力をしてもらい、ヤングケアラーの相談や支援に繋がっていくことも出来るのではないのでしょうか。場合によっては、センターから家庭にプッシュしていく体制とすることも出来るのではないかと思います。
- こども家庭支援課長 あんしんケアセンターも一つの重要な支援機関だと認識しています。
- ただ、ヤングケアラーとなる背景には、様々な原因があり、あんしんケアセンターで対応できないケースもあろうかと思えます。そういう状況もあり、あくまで一つの連携先として考えております。
- その他、障害者基幹相談支援センターや保育所といった関係機関と連携していくためのコーディネート機能を構築して、支援体制の強化を図りたいと考えています。

小西委員

注意していただきたいのは、先生方の負担を増やさないようにすることです。

ヤングケアラーの認知や必要な支援は何なのかを見極めることを先生方が担うには、相当の負担となりますので、先生方が「おかしい」と感じたら、その後は行政が引継ぎ、必要な支援に繋げていくという仕組みとなることを期待しています。

次に、ヤングケアラー支援は複合的な要素によるものなので、行政組織も対応窓口が様々あることになっていると思います。今回、コーディネート機能を強化することで、いわゆるたらい回しにならないようにしてもらいたいと思います。

次に、今後、リーフレットを学校に配布するということですが、可能であれば、ヤングケアラーの経験者に話をしてもらったり、動画を作成したりするといったのではないかと思います。

なお、千葉県のリーフレットには、「身近な人たちに相談してね」という表記がありましたので、市のリーフレットにも同様の案内をしてもらいたいと思います。

次に、家事支援もするということで、非常に素晴らしいと考えていますが、申請手続きが煩雑にならないようにしてもらいたいです。また、他人が家の中に入ってくることに抵抗を感じ、利用が進まないかもしれませんが、こうしたことが起こりにくくするように、相談窓口で申請支援等も行くと良いのではないかと思います。

教育長

先ほど、少し話が出ましたが、学校にリーフレットを配布するといったときに、単に配るだけならどの学校でも対応できますが、周知・説明してほしいということになると、対応が難しい状況となってきます。

今後、リーフレットを配布する際には、学校現場に何を求めているのか、より具体的に伝えていただくようお願いしたいと思います。

こども家庭支援課長

先生方に負担の無いように、周知方法を整理して依頼したいと思います。

なお、現在、ヤングケアラーの状況としては、深刻な場合、児童相談所など関係機関で対応していますが、成績や日常生活に支障が出ているにも関わらず、それを認知していないケースにも手を差し伸べていかなければならないと考えています。

現在、関係機関で共通認識を図って、体制を構築しているところです。

リーフレットに関して、現在、校正中で、必要な事項や効果的な情報は掲載したいと考えていますが、「気軽に相談してほしい」等、追加することができるか、確認したいと思います。

最後の申請方法に関しても、必要な家庭に家事支援等が届けられるように検討を続けております。

小西委員

案内して終わりとか、ヤングケアラー本人では申請が難しいということなく、相談窓口の支援員にも動いてもらえればと思います。

高津委員

本当に支援を必要としている子どもに、適切な支援をしていくことが出来るように体制を整えてもらいたいと思います。

例えば、各学校にいるスクールソーシャルワーカーが集まって情報共有をする場も、必要に応じて、設けてもらえれば良いのではないかと思います。

市長

学校現場で異変に気付くことは出来るという状況になってきており、ヤングケアラーについての認知は広がってきているのではないかと思います。

ただ、実際の支援に繋げていくには、まだまだ議論が進んでおらず、行政の担当部署、特に福祉分野では、介護や障害、経済支援などというように縦割りとなっている状況

が見られています。

こうした状況を打破しなければならないのが、ヤングケアラー支援だろうと感じたところです。

このような問題意識のもと、福祉まるごとサポートセンターを開始したわけですが、ヤングケアラーについても縦割りの行政機関に横軸を通すようなやり方を構築していかなければならないと考えています。

コーディネート機能の強化やスーパーバイザーの役割を誰が担うのかということについて、検討を進めてもらいたいと思います。

ヘルパー派遣についても適切な方法を検討していると思いますが、誰もが利用しやすくしてもらいたいです。既存の制度で対応が難しいなら、新しい、独自の千葉市らしい支援策というものを検討してもらいたいと思います。お願いします。

### (3) 千葉市キャリア教育の新基本方針の策定について

#### (説明要旨)

学校教育部長 キャリア教育について説明します。

#### ●これまでの取組み

- ・授業内容充実、教職員の資質向上のための取組み
- ・キャリア教育推進連携会議
- ・起業家精神を持つ人材の育成

#### ●新基本計画の策定の背景について

- ・予測困難な時代かつ人生100年時代という社会状況の変化
- ・自分らしい生き方を見つける。ウェルビーイングの向上につながる。

#### ●新基本方針(案)

- ・目標は「一人ひとりが自分のよさや可能性に気づき、夢や目標、希望に向けて、主体的に行動できる自動生徒の育成」
- ・取組みの方向性として、「取組みの見える化」・「取組みの充実」・「子どもを含む関係者の参画」の3本柱

#### (質疑応答)

藤川委員

「主体的に」ということを意識し、各項目と関連付けて、取組みを進めていただきたいと思います。例えば、企業の方の話を聞く場合、話を聞いているだけでは主体的ではありませんので、何か一緒に活動をするといった、子どもたちが自分から何かをやってみるという立場になるように取り組んでもらいたいと思います。

そういった意味では、アントレプレナーシップ教育のやり方が重要だと思います。

これまで無かったビジネスを自分たちで企画して実行してみようという教育であり、主体的な取組みになると思います。ただ、なかなか学校教育に取り込むことが出来ていない状況となっているので、こうしたやり方を他の取組みにどのように取り入れていくかということが、これからの課題になっていくものと思います。

教育改革推進  
課長

主体的に取り組むということについて、まさにその通りで、まずは先生方が主体的に取り組むという意識を働かせることが必要だと感じています。

一方で、出前授業として、学校に来ていただいている企業の方からは、何を話すべきかわからないという声も聞こえているので、こうした点を反省して、主体的な取

組みに繋げていきたいと考えております。

そして、子供の声を聞く事にも力を入れており、今回のキャリア教育の新基本方針を作る過程等において、子どもたちの意見や考えを聞いているところです。

竹田委員

第三次学校教育推進計画では、キャリア教育のグランドデザインをR4年度に作成し、R5年度はそれを活用するものであったと思います。

実際には、そのグランドデザインが何割ぐらいの学校で作成できているのか教えてください。また、学校によってどのような特色があるのか教えてください。

2点目は、小中高の繋がりについて、キャリアパスは、小学校から中学校に進むときには問題ないですが、高校に進むときに、千葉市立の高校は二つしかないこともあり、多くの中学生は県立高校や私立高校に行ってしまいます。

その際、キャリアパスはどういう扱いになるのか教えてください。市立高校以外でも、小中9年間使ってきたキャリアパスを使えるのか気になっております。

3点目は、職場体験学習について、約50か所の職場に協力してもらっていますが、職種が偏っているように思います。

子供たちの希望に対応した形なのか、学校で選択肢を用意したのか、現状どうなのか教えてください。

次に、特別支援学級や特別支援学校、あるいは夜間中学校、そういうところのキャリア教育はどうされるのか、教えてください。

教育改革推進  
課長

現在、全ての市立小中学校でグランドデザインを作成している状況です。

その特色については、まだ把握できておりません。

キャリアパスの繋がりについて、高校への継続が進んでいないのが現状であり、本当に課題だと感じています。高校でも活用できるように原因を整理して、どのように取組んでいけるのか考えているところです。

次に職場体験に関しては、現在、精査しているところです。

夜間中学や特別支援学校等に関しては、基本的には今回の新基本方針で対応するところですが、特別支援学校支援推進計画に基づいて取組みを進めています。

竹田委員

キャリア教育のグランドデザインに関しては、保護者に配布したのでしょうか。PRをした方がいいと考えます。

教育改革推進  
課長

検討します。

教育長

職場体験について、実態として、各学校の教員が職場体験を受入れてくれる場所を探しているほか、安全性の観点から、校区内の職場が中心となっていることから、どうしても職種に偏りが出ているところではあります。

こうした課題を受け、数年前からは企業の方に学校に来てもらう出前授業としての職場体験学習にも取り組んでいるところです。

市長

ウェルビーイングという言葉が資料に出てきました。その意味を調べると、ハピネスと異なり、主体的な意味が含まれているのではないかと思ったところです。

理念にもあるように、人生の目的や夢を持って、ポジティブな姿勢で課題に取り組んでいく子どもたちを育むということは、まさにその通りだと思います。

ウェルビーイングという言葉在市としても使っていくようであれば、その語源に沿った使い方をしてもらいたいと思います。



また、アントレプレナーシップ教育の話がありましたが、この夏に自由研究の発表を見に行った際に、理数系の分野の関心を深めたい方に対しては、学校を紹介するような印象を受けたので、キャリア教育という意味では、経済の分野や企業に接続していくことが出来るようにしてもらえればいいのではないかと思います。

子ども達は、非常に高度で素晴らしいことを行っていますので、これらのことと経済や政治の分野にも繋がる取組みとすることも大事ではないかと感じました。

東京から来ていた記者が言うには、この取組みのいいところは、自分の考えを周りの共感を得ながら、共同作業の中で実現することが出来ることだという話でした。こうした経験・スキルは今まさに必要なものですので、学校外のこうした経験が出来る場所との接続を強化してもらいたいと思います。

職場体験学習で、出前授業として企業の方から話を聞く場があるとのことですが、多種多様な職種、経験をしてきた方から話を聞いて、それが親に伝わるということが重要ではないかと思います。

親の世代は、まだまだ昔ながらの考え、例えば安定とか大企業が良いとかいう考えを持った方がいますので、そうした親に、様々な道があるということが、子どもから伝わっていけばいいのではないかと思います。

商業高校の卒業生で、苦労はしたかもしれませんが、素晴らしい経営者になられている方もたくさんいますので、そういった方々からの話を聞くということで、得られるものがあるのではないかと思います。

それでは、一通り、皆様から意見をいただき、事務局を含めて、活発な意見交換が出来たのではないかと思います。

予算編成にも繋がる議論だったと思いますので、引き続き、取組み等を進めていただきたいと思います。

ヤングケアラー支援については、異変のある子どもを見つけるというところに力を入れてきているところですが、そうして見つけた子どもに必要な支援を届けることが出来るように、機能したネットワークが必要だという意見がありました。

また、キャリア教育では、主体的という言葉をどう具現化するのかというところが重要な論点だったかと思います。

千葉市ではこれからの分野ですので、知見を蓄積し、皆様のご支援をいただいて、さらにブラッシュアップしていくことが出来ればいいのではないかと思います。

## 6 照会先

- ・会議の運営等について

総合政策局総合政策部政策企画課 TEL 043-245-5053

- ・議題（1）について

総合政策局総合政策部政策企画課 TEL 043-245-5053

- ・議題（2）について

こども未来局こども未来部こども家庭支援課 TEL 043-245-5671

- ・議題（3）について

教育委員会事務局教育総務部教育改革推進課 TEL 043-245-5712